

提言第 1 号 中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析

事例9

< 事例概要 >

・間質性肺炎急性増悪、胃・十二指腸潰瘍で経管栄養が中止となった患者。意思疎通困難。

・死因は不明。カテーテル先端の後腹膜への誤挿入が病状の増悪要因（推定）。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖 無。

・中心静脈栄養目的で、ランドマーク法により右鼠経部から中心静脈カテーテル（ダブルルーメン）の挿入を試みたが、静脈の虚脱により複数回穿刺したが、穿刺できなかった。左鼠径部から穿刺し挿入されたことを腹部X線で確認した。点滴開始12 時間後にショック状態となった。下腹部膨満と軽度疼痛があり、腹部単純CT で、カテーテル先端が後腹膜に留置されていることが判明し、点滴を中止した。腹腔穿刺を行ったが、穿孔性腹膜炎は否定的で、保存的治療を行うが徐々に状態は悪化し、挿入 4 日後に死亡した。